

## 平成 25 年度 第 2 回桐間地区事業所等津波避難対策協議会会議録

日 時：平成 25 年 10 月 30 日（水） 14：00～15：00

場 所：桐間東 29 番地 四国労働金庫須崎支店 2 階会議室

出席者：別紙のとおり

### 1. 挨拶

（地震・防災課長より）

各事業所でのアンケート調査のご協力、シミュレーションについてのヒアリングにご協力頂いたことを、この場をお借りしてお礼を申し上げたい。

本日は、アンケートの結果又はシミュレーションの概要について、事務局から報告をさせていただく。

その後、漂流物対策や陸域での避難対策について協議を行う専門委員会の中で、アドバイスをして頂いている長野正孝さんに、ヒアリングの結果や桐間地区での避難の課題等についてお話を頂き、今後行政と事業所とがどうすれば命を守れるかということと共に取り組んでいきたい。

### 2. 報告事項

#### ・ 避難意識アンケート結果

桐間地区にある量販店などの大規模店舗にお願いして、7 月 28 日（日）、8 月 4 日（日）、8 月 11 日（日）の 3 日間で、お客さんに対するアンケートを実施して頂いた。結果については、資料の 2・3 枚目をご覧頂きたい。2 枚目の資料が実際に行ったアンケート内容で、3 枚目の資料に集計結果をお示ししている。

（アンケート内容・結果は別紙資料を参照）

### 3. 協議事項

#### ・ 津波シミュレーション概要

以前からお話ししている通り、桐間地区は昼間人口が非常に多く、避難にあたって様々な問題を抱えている。須崎市としても、予算を計上してシミュレーションを実施するようにしている。

（概要については別紙資料を参照）

- ・ 避難課題について

先程、津波避難シミュレーションの概要について説明させて頂いた。

ここからは、本日おいで頂いている須崎市防災アドバイザーの長野さんの方から、避難課題についてご説明して頂きたいと考えている。

3.11 でよく分かるのだが、市町村によって人口の 55%や 30%が亡くなったという話がある。

須崎市の人口は 2 万人だが、1 万人亡くなってしまう、隣の人が亡くなってしまうという状況が起こるという事を、本気になって考えて頂きたいと思っている。

行政が、防波堤・防潮堤を造り、漂流物を止めても、店内や駐車場で遅れて逃げる人が駐車場出入口から出られなくなることがある。

記録には載っていないが、全国でスーパーマーケットや遊技場、銀行で多くの方が亡くなっている。そのほとんどが、地震で落ちた商品を片付ける、本社の指示を待つなどの、避難の遅れによって亡くなってしまうケースである。

私は、人のつながりの中で、連続性の中で人を助けていかなければいけないという事で、このシミュレーションを市にお願いした。

何もしなければ、従業員の 20~30%は間違いなく亡くなるだろう。

これから、みんなで助かることを考えて行きましょう。今日はこれからそれを説明させていただく。

(避難課題については別紙資料を参照)

- ・ アンケート結果の説明について、店長・責任者の方に重要な事が 2 点ある。
  - ① 津波の時に、全ての従業員がどこへ逃げるか把握していただきたい。
  - ② 事業所は、お客さんに安全を提供するという事を意識していただきたい。
- ・ 避難先で飲料、トイレの不足が考えられる。そういったサービスの協力をいただきたい。
- ・ 最終の避難者には、ライフジャケットを着用していただきたい。

(質疑) 漂流物が店舗に入ってくる際の威力はどのくらいになるか。

(回答) トラックが突っ込んでくると、考えてもらっていただければ良いと思う。

(質疑) アルミシャッターの漂流物に対する効果はどのくらいか。

(回答) 火のついたものが突っ込んでくるので、外壁から数メートルに防燃材・不燃材を活用するなどの工夫をしていただきたい。特に入口の所で対応することが重要である。それ以外の所は、津波高 2~3m なら何とかなるが、2 階を超えるようになると、人間の対策の力では困難になる。

(補足：長野)

駐車場の出入口について、避難者が一斉に出口に向かい混雑することも予想できる。出入口を工夫するだけで解決する問題であればできるだろう。

## 事務局

このシミュレーションについては、現在須崎市から業者の方に発注している状況である。基本的にシミュレーションが出来上がってくるのが、年をあけて 2、3 月ぐらいである。

そういったことも含めて、シミュレーションの進捗に合わせて、本会議を開催しご説明させていただきたい。

また、シミュレーション等に関するご意見も、事務局の方で受け付けております。

## 4. 確認事項

### ・ 津波避難誘導板について

以前から、話をさせて頂いていた桐間地区の避難誘導板について、ある程度形が決定したので、お伝えさせていただきたい。

(資料の地図を参照)

- 1 マルナカ東側 (遊園付近フェンス)
- 2 ケーズデンキ北側 (歩道沿いの柵)
- 3 ケーズデンキ東側 (市道沿いフェンス)
- 4 セントラルディーポ南 (歩道沿いの柵)

1、3 についてはマルナカ、ケーズデンキの所有物となっているため、使用許可を頂きたい。後日、改めて正式な書類を持って伺いたい。

誘導板の表示内容としては、避難場所ピクト・避難場所名称・避難方向 (矢印) を標記するよう考えている。

(質疑) 全体的なものが完了するのは、いつ頃の予定か。

(回答) 前回お話しさせて頂いた際に、設置場所について話をさせていただいたが、シミュレーションを実施するにあたり予算の方が厳しい状態となっている。したがって、今年度は4ヶ所とさせてもらっている。

また、各事業所にも看板の設置をお願いしており、設置を申し出ていただいた店舗もある。

新規店舗により誘導板が見えなくなることもあり、予定しているすべての誘導板を設置したら終わりというわけではない。

一度、案として出したものについては、2~3年かけて設置していけたらと思っている。

(補足：長野)

各事業所の社名をPR用に入れるなど、市と一緒に考えて行くことが必要になると思われる。

事務局

今後、具体的に進める際は、こちらから場所等の相談をさせて頂きたいと考えているので、その時はよろしくお願いしたい。

5. その他

事務局

今後の会議自体は、シミュレーションの進捗状況によりご案内させて頂く。

9月1日(日)に予定していた訓練が悪天候により中止になった為、改めて12月15日(日)午前9時から、市内一斉避難訓練の実施を予定している。9時にサイレンを鳴らし、一斉に避難訓練を開始するよう計画しているので、事業所の皆さんにもご協力をいただきたい。

消防署長

いつも、消防業務にご協力頂きありがとうございます。今後も、皆さんとともに知恵を振り絞って、より良い避難の方法を探っていきたいと考えている。

分団長

多ノ郷地区の消防団員としては、現在36名が活動している。各事業所で避難訓練や避難道の確認については、地震・防災課に連絡していただければ、消防団としても協力できる。

(質疑) 近くに鉄道が通っているが、JRとの連携はどうなっているか。

(回答) 現段階では具体的にはないのだが、JR との連携は取っていかねばならないと考えている。須崎駅の駅長とは、防災について話もしており、そこから企画部へ桐間地区等の課題を挙げ、協議をしていきたいと考えている。

(補足：事務局)

鉄道では吾桑駅、高速道路では須崎東料金所が拠点になると考えられる。そういったものを含めて、どういった具体的な対策ができるか、桐間地区の方がそちらへ避難するにはどのような対策ができるかを今後協議していきたいと考えている。

(質疑) 避難者は、線路を横切るなどの近道をして逃げたいと思う。どの程度の規模の揺れなら JR が止まるのかなどの情報がほしい。

(回答) JR は線路や踏切の問題など、難しいところもあると思うが、実際に避難の課題があるので、そのあたりも含めて駅長に伝えて、今後協議を進めていきたい。

(補足：長野)

専門委員会での内容が須崎市のホームページで閲覧できる。

線路の横断については、どこを通りたいかを市役所に要望を出してもらいたい。

(補足：事務局)

吾桑駅には、吾桑地区の防災拠点倉庫として須崎市が整備している。今後は、倉庫の中身を備蓄していく。基本的には、飲食物ではなく、応急手当や仮設トイレといったものを整備するように進めている。ただ、行政だけでは100%の整備は難しい為、事業所で出来る努力は進めていただきたい。

(質疑) 地域連携の中で、消防団に助けを求めることはできるのか。

(回答) 消防団としては、地震発生直後は自分と家族の命を守るようにしている。本格的に、救助等に取り掛かるには、津波の危険性がなくなっただけからになる。地震発生直後に、消防団が桐間地区へ救助に向かうことは9割難しい。

桐間地区には20分程で第1波が来るとされており、津波の到着以前に高台に逃げるしかない。正しい避難場所、避難経路を理解してもらうことが重要であり、説明が必要であれば、消防団員を連れて説明もさせていただく。地震・防災課に聞いていただければ、分団長の連絡先も教えることができる。

(質疑) 車の避難による渋滞や、歩行が困難な方がいる場合でも、建物に留まるより高台に避難した方がいいのか。

(回答) 建物でも留まっていい場所とそうでない場所がある。必ずしも 10m の津波が来るというわけではないので、ライフジャケットをつけて、それ以上の津波がきたらそれで逃げることも考えられる。

(補足：長野)

先程、津波の到達は 20～30 分掛かると説明したが、突然近くで地震が発生して、10 分以内に津波が来るともある。そういう場合は、浮くものをつけて逃げるしかない。色々な考え方を複数持ち合わせる事が生き残るコツである。

例えば、ペットボトルを利用した浮袋を複数準備する。

事務局

何か質問等がありましたら、地震・防災課までお願いしたい。